



左から司会の小笠原兄、大村牧師、萩原信友会会長

阿佐ヶ谷教会



信友会会報

9月例会(9月22日開催)報告

「使徒言行録の学び」(第11回) 大村 栄 牧師

—新約聖書 使徒言行録 第11章—

いよいよ11月に入りました。例年同じ時期に感じる季節の変化が、今年は違ったもの感じられるのはなぜでしょうか。夏以降度々起った大自然の驚異に圧倒されてしまっているからかもしれません。こうした大災害に対する不安を少なくする方法は、何か一つでも災害に対しての備えを具体的にしておく事といわれています。これからの厳しい寒さに備え、体調を崩さぬ様、どうぞご自愛ください。

さて9月22日に行われた信友会例会は、大村栄牧師による使徒言行録の学びと、この会報では報告出来ませんでしたが、打方真樹兄と中川義幸兄による韓国で開催されたアンダーウッド学術講座に出席した報告があるなど大変充実した会でした。次回例会は11月24日です。ぜひご出席ください!

「聖霊行伝をたどる—使徒言行録の学び—」 大村 栄 牧師

第10章では、ペトロがローマ軍の百人隊長であり、一家そろって神を畏れるコルネリウスの熱心な祈りに応える形で洗礼を授けることが記されています。カイサリアにいたコルネリウスが、夢で神からヤッファにいるペトロを招くよう言われ、使いの者たちをヤッファに送ります。一方、ペトロも幻で神から3度もユダヤ教で食べることを禁止されている物を食べることを命ぜられ、また霊の導きで使者と一緒にカイサリアに向かいます。そして、コルネリウスの家に入り、ユダヤ人が外国人との交際や相互訪問が律法で禁じられているが、神からこの差別を許されることを伝え、彼らに説教を行い、聞いている人々に洗礼を授けたと書かれていました。

(次ページへ)

たりる

かけたかつじは
てにひろわれて
あらたなかみに
わがみをゆだね

ことばのはかげに
ひとをいこわせ
あしたをうたう
ほんをゆめみる

作…谷川俊太郎

「足りない活字の
ためのことば」展より

この詩は谷川俊太郎氏が東日本大震災で被災した岩手県釜石市の印刷工場で長年使用されていた活字を使って創作したものです。地震と津波で棚から落ちてバラバラになった6万個の鉛合金の活字は、廃棄される所でしたが、ボランティアが「処分されるのは忍びない」と拾って譲り受け、新たな創作物へ再生させたのです。使える活字は「あ」は6個までと数に限りがあり、作家は足りないことを楽しんで作品を作ったそうです。(11月5日毎日新聞より)



(前ページより)

エルサレム教会への報告

11 章冒頭では、異邦人が福音を受け入れ、ペトロが洗礼を授けたことがエルサレムの教会に既に知られており、エルサレムに帰ったペトロに律法上許されない「割礼を受けていない者たちと一緒に食事をした」ことを非難されます。4 節からペトロの弁明が始まります。

ペトロは、ヤッファにいたとき幻で、天から布に載せられた地上の獣、野獣、這うもの、空の鳥など神から律法上許されない食べ物を食べるよう命じられます。ペトロが断ると、9 節で「神が清めた物を清くないなどとあなたは言うてはならない」との声が聞こえます。ペトロがその意味を考えているときにカイサリアから使者が来ます。霊はペトロへのカイサリアへの招待に、ためらわずに行くこと、そしてコルネリウスの家に入るように告げます。コルネリウスはペトロに、天使がペトロから自分と自分の家族を救う言葉を聞くよう告げられたと言います。ここでの禁止食物の摂食命令は、異邦人との交流を神が認めていることを暗示したものです。ペトロは、「私が話し出すと、聖霊が最初に私たちの上に降ったように、彼らの上にも降ったのです」。そして「ヨハネは水で洗礼を授けるが、あなたがたは聖霊によって洗礼を受ける」と言われたイエスの言葉を思い出します。使徒言行録 1 章 4 節のイエスが語る神の約束が、使徒たちばかりでなく異邦人にまで及ぶことを知ります。そして、「主イエス・キリストを信じようになった私たちに与えて下さった賜物を、神が異邦人たちにもお与えになったのなら、私のようなものが、神がそうなさるのをどうして妨げることができましょう」と言いました。その言葉を聞いた人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えて下さったのだ」と言って神を賛美します。聖霊降臨は、使徒言行録 2 章、5 旬祭の日のユダを除く 11 人の使徒たちに続いて、この時異邦人の上にも降りたのです。キリスト教の世界宣教の展開のなかで、歴史的な大転換の時を迎えたのです。ここから、異邦人伝道が加速し、キリスト教が世界へ広がって行きました。

アンティオキアの教会

第 7 章でのステファノの殉教の事件から、キリスト者への迫害が強くなったため、特にギリシャ語を話すディアスポラのキリスト者は地中海世界へ散らされ、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで拡散します。アンティオキアは、現在のトルコに属する交通の要衝で、ローマ、アレキサンドリアに次ぐ通商都市でした。彼らは行った先でユダヤ人にしか福音を語らなかったのですが、キプロス島やキレネから来た人々がギリシャ語を話す異邦人にも福音を告げると、これを信じる人々が増えたのです。この噂がエルサレム教会にまで聞こえたので、バルナバをアンティオキアに派遣します。バルナバは、ディアスポラのユダヤ人で、その名は「慰めの子」という意味を持ち信望の高い人物です。バルナバがアンティオキアで神の恵みが与え



多くの人を見て大いに喜び、人々に固い決意を持って主から離れることのないようにと「信仰の継続」を勧めました。バルナバが聖霊と信仰に満ちた人物であったため、伝道が進み多くの人が導かれました。

バルナバは、聖霊を受けたサウロを最初にエルサレムの教会に連れて行った人物であり、アンティオキアの伝道をサウロとともに行うことにして、タルソに探しに行きます。サウロはキリスト者を迫害した過去から、回心しても信徒たちの信頼を得られず、居場所を失い、生まれ故郷のタルソに戻っていたからです。アンティオキアに移動したサウロとバルナバはここで丸1年間伝道に励み多くの人を教えました。

アンティオキアで初めて弟子たちが、キリスト者、クリスティアノス、クリスチャンと呼ばれるようになりました。これは「キリストの者」という意味のニックネームで皮肉っぽい言い方です。「キリスト」が救世主を意味する一般的な称号から、ナザレのイエスを指す固有名詞化していたこともわかります。

27節からは、アンティオキアに来たアガポという預言する者が世界中で大飢饉が起こることを預言し、クラウディウス帝の紀元47年頃にはパレスチナにひどい飢饉が起こります。アンティオキアの人々はそれぞれの力に応じてユダヤに住む兄弟たちに援助の品を送ることにし、バルナバとサウロに託してエルサレムの長老に届けています。これが教会が行う災害援助の先駆けであり、信仰と奉仕が一体であること、必要な人に手を差し延べるのが教会の使命です。

(文責：玉澤武之)



9月7、8日に韓国で開催されたアンダーウッド学術講座に参加した打方兄よりスライドを使って、教会の歴史や学術会議の目的、開催意義、今後の韓国キリスト教会との交流への提案などが説明がされた。

また、一緒に参加した中川兄より現地で感じた感想を話してもらった。

信友会 2013 年度 第 5 回 例会・役員会記録

日 時：2013 年 9 月 22 日 12:30 ～ 14:30 (例会後役員会)～17:00

場 所：教会ホール (例会出席 27 名、役員会 8 名)

1. 9 月例会

- (1) 大村栄先生に使徒言行録 11 章の聖書講解をしていただいた。
前半の報告が延び、30 分という短い時間であったが、異邦人伝道と「キリスト者—クリスチャン—」の呼び名の登場等について語っていただき、短時間ではあったが充実した時であった。
- (2) 会員消息
- (3) 9 月誕生日を迎えた会員を祝った。
- (4) 韓国で開催されたアンダーウッド学術講座に出席した、打方真樹兄と中川義幸兄から報告があった。
本年の主テーマは「脱北者」「中国宣教」「東日本大震災支援」であり、青年信徒育成のためのプログラムが企画されていた。
- (5) 今後の震災支援の方法について討議をした。さんま、米販売、8 BOX、のほかにパソコン支援などを実行する。

2. 役員会

- (1) クリスマス愛餐会委員 寺嶋章兄が委員に選抜された。
- (2) バザーについて、主な担当分けをした。
- (3) 10 月はバザーのため、例会、役員会は休会。
- (4) 11 月例会：2013 年 11 月 24 日 (日) 礼拝堂 (ホールはシオン会が使用の為)
テーマ：「聖書行伝をたどる—使徒言行録の学び—」第 12 章—
講 師：大村 栄 先生
司会：未定 以 上

(記録：荻原雄二、玉澤武之、写真：松田俊彦、小笠原敦久、会報レイアウト：小野淳二)

わたしと使徒言行録

コキーユ・サン・ジャックをご存知ですか？

森沢 弘雅

使徒言行録 1 章 13 節には、イエスに選ばれた 12 人の使徒の名前が出て来ますが、実際の活動が紹介されるのはペトロとヨハネだけです。あとはヘレニストであるステファノ、フィリポ、バルナバ、キプロスやキレネの無名の人々、そして 13 章以降に主役となるサウロ (ローマ市民名パウロ) であり、それ以外に生前のイエスの直接の弟子たちの活動は紹介されません。

ところで、12 章 2 節に突然ヨハネの兄弟ヤコブ (ゼベダイの子、大ヤコブとも呼ぶ) が、ヘロデ・アグリッパ 1 世に処刑されたと書かれています。

9 世紀に、このヤコブの遺体がスペインのコンポステラで奇跡的に発見されたと伝えられており、そのためヤコブはスペインの守護聖人とされています。この地は今ではサン・ティアゴ・デ・コンポステラと呼ばれ、彼を祀る大聖堂があります。

生前ヤコブはエルサレムを発って、フランスを経由し、はるばるスペインの北西端まで布教の旅をしたようです。パリにはサン・ジャック通りがあり、サン・ティアゴとは聖ヤコブのスペイン語読みです。コンポステラに着いたヤコブは、記念にホタテ貝を拾い、これがヤコブのシンボルとなっております。フランス料理のメニューにコキーユ・サン・ジャックがありますが、これはホタテ貝のことです。

信友会例会開催予定：次は 11 月 24 日です (12 月はクリスマス愛餐会があるので休みです)